



## 平成29年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成28年8月9日

上場取引所 東

上場会社名 福留ハム株式会社

コード番号 2291 URL <http://www.fukutome.com/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 中島 修治

問合せ先責任者 (役職名) 経理支援部長

(氏名) 深町 誠

TEL 082-278-6161

四半期報告書提出予定日 平成28年8月10日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成29年3月期第1四半期の連結業績(平成28年4月1日～平成28年6月30日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
29年3月期第1四半期	6,725	△4.7	55	△61.6	96	△43.2	50	△55.0
28年3月期第1四半期	7,056	2.2	143	—	170	—	111	—

(注) 包括利益 29年3月期第1四半期 △60百万円 (—%) 28年3月期第1四半期 361百万円 (248.2%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
29年3月期第1四半期	3.00	—
28年3月期第1四半期	6.65	—

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
29年3月期第1四半期	17,190	5,745	33.4
28年3月期	16,561	5,856	35.4

(参考) 自己資本 29年3月期第1四半期 5,744百万円 28年3月期 5,856百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
28年3月期	—	0.00	—	3.00	3.00
29年3月期	—	—	—	—	—
29年3月期(予想)	—	0.00	—	3.00	3.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 平成29年3月期の連結業績予想(平成28年4月1日～平成29年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	14,900	3.8	250	△20.8	260	△23.9	160	△21.4	9.41
通期	29,600	4.6	480	△21.0	500	△23.0	290	140.0	17.06

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

29年3月期1Q	17,000,000 株	28年3月期	17,000,000 株
② 期末自己株式数	309,244 株	28年3月期	309,094 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	16,690,843 株	28年3月期1Q	16,692,494 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

・この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期レビューの手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	3
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	3
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	3
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	3
(4) 追加情報	3
3. 四半期連結財務諸表	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	8

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府による経済政策を背景に、企業収益の改善や雇用情勢の改善がみられるものの、個人消費が伸び悩むなか、円高や株式市場の低迷に加え、海外経済新興国の景気減速や英国のEU離脱問題等による影響もあり、依然として先行き不透明な状況で推移いたしました。

当業界におきましては、消費者の低価格・節約志向が根強く残るなか、主原料及び包装資材の高止まりから製造コスト等の上昇、さらに国内食肉相場の高騰もあり、依然として厳しい環境で推移いたしました。

このような状況のなか、当社グループは、「お客様第一にあふれる味覚をお届けします」をモットーに「安心・安全・美味しさ」を追求し、創業100周年に向けて経営理念のさらなる浸透を図るとともに、コンプライアンスを重視した社員教育を実施いたしました。また、製造コスト等の上昇が当社の経営を強く圧迫する要因となっている状況のなか、作業効率の改善や仕入の見直しを重視し、コスト削減努力を継続して行ってまいりました。

販売に関しましては、「花ソーセージ」シリーズのテレビCM放映や、コンビニエンスストア・ドラッグストアでの販売、そして「ロマンティック街道」シリーズに加え、マイスターこだわりの「広島港町ハム工房」シリーズや真空調理法の「ロースト」シリーズなどの高付加価値商品の販売強化を進めるとともに、ギフトにおきましても「宮島」・「弥山(みせん)」ギフトや佐賀牛・熊本牛・広島もち豚の食肉ギフトも含めて充実を図ってまいりました。さらには、確かな品質・確かな味わいのJAS上級シリーズを発売し、ロースハム・ベーコン・ウインナーとラインナップを増やし、売り場でのコーナー展開を充実させてまいりました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は、67億25百万円(前年同四半期比4.7%減)となりました。利益につきましては、営業利益は55百万円(前年同四半期比61.6%減)、経常利益は96百万円(前年同四半期比43.2%減)、親会社株主に帰属する四半期純利益は50百万円(前年同四半期比55.0%減)となりました。

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

#### 加工食品事業

加工食品事業につきましては、全体的な消費不振のなか「花ソーセージ」、「ポークボロニアステーキ」、「くまモン」をパッケージに使用した商品が堅調に推移しましたが、競争激化や熊本地震の影響などにより、売上高は減少しました。

その結果、売上高は29億83百万円(前年同四半期比8.4%減)、セグメント利益(営業利益)は1億45百万円(前年同四半期比19.7%減)となりました。

#### 食肉事業

食肉事業につきましては、国産牛肉において、相場の高騰により消費の縮小が進み、売上高、販売量とも大幅に減少しました。国産豚肉においては、出荷頭数の減少により相場の高騰もみられましたが、高値での相場が安定し、適正な利益確保ができました。輸入ミートにおいては、国産牛肉、豚肉の高値により代替需要や新規商品の拡大もあり売上高、販売量とも増加しましたが、国産牛肉の落ち込みをカバーするまでにはいたりませんでした。

その結果、売上高は37億41百万円(前年同四半期比1.6%減)、セグメント利益(営業利益)は42百万円(前年同四半期比53.1%減)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産の部)

当第1四半期連結会計期間末の資産合計は、前連結会計年度末に比べ6億28百万円増加の171億90百万円となりました。

流動資産は、前連結会計年度末に比べ8億7百万円増加の82億74百万円となりました。主な要因は、現金及び預金6億25百万円、商品及び製品93百万円の増加によるものであります。

固定資産は、前連結会計年度末に比べ1億78百万円減少の89億15百万円となりました。主な要因は、投資有価証券1億73百万円の減少によるものであります。

(負債の部)

当第1四半期連結会計期間末の負債合計は、前連結会計年度末に比べ7億39百万円増加の114億45百万円となりました。

流動負債は、前連結会計年度末に比べ2億58百万円増加の81億46百万円となりました。主な要因は、支払手形及び買掛金3億54百万円の増加及び未払法人税等1億41百万円の減少によるものであります。

固定負債は、前連結会計年度末に比べ4億80百万円増加の32億99百万円となりました。主な要因は、長期借入金5億3百万円の増加によるものであります。

(純資産の部)

当第1四半期連結会計期間末の純資産合計は、前連結会計年度末に比べ1億11百万円減少の57億45百万円となりました。主な要因は、その他有価証券評価差額金1億17百万円の減少によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

第2四半期連結累計期間及び通期の業績予想につきましては、平成28年5月13日に公表いたしました業績予想の変更はしておりません。

今後、何らかの変化がある場合には適切に開示してまいります。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

(会計方針の変更)

法人税法の改正に伴い、「平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱い」(実務対応報告第32号 平成28年6月17日)を当第1四半期連結会計期間に適用し、平成28年4月1日以後に取得した建物附属設備及び構築物に係る減価償却方法を定率法から定額法に変更しております。

なお、当第1四半期連結累計期間において、四半期連結財務諸表への影響は軽微であります。

(4) 追加情報

(繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針の適用)

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日)を当第1四半期連結会計期間から適用しております。

## 3. 四半期連結財務諸表

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成28年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	3,347	3,972
受取手形及び売掛金	2,709	2,740
商品及び製品	930	1,024
仕掛品	43	57
原材料及び貯蔵品	316	322
繰延税金資産	82	113
その他	40	44
貸倒引当金	△1	△0
流動資産合計	7,467	8,274
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	1,924	1,883
機械装置及び運搬具(純額)	533	515
土地	3,344	3,344
リース資産(純額)	305	301
その他	32	55
有形固定資産合計	6,140	6,100
無形固定資産	101	95
投資その他の資産		
投資有価証券	2,282	2,109
繰延税金資産	365	401
その他	368	356
貸倒引当金	△164	△147
投資その他の資産合計	2,852	2,720
固定資産合計	9,094	8,915
資産合計	16,561	17,190

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成28年6月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2,236	2,590
短期借入金	4,501	4,437
未払法人税等	210	69
賞与引当金	191	102
その他	747	945
流動負債合計	7,887	8,146
固定負債		
長期借入金	252	755
役員退職慰労引当金	301	278
退職給付に係る負債	2,023	2,027
その他	240	237
固定負債合計	2,818	3,299
負債合計	10,705	11,445
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,691	2,691
資本剰余金	1,503	1,503
利益剰余金	1,115	1,115
自己株式	△78	△78
株主資本合計	5,232	5,232
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	772	655
退職給付に係る調整累計額	△149	△142
その他の包括利益累計額合計	623	512
非支配株主持分	0	0
純資産合計	5,856	5,745
負債純資産合計	16,561	17,190

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)
売上高	7,056	6,725
売上原価	5,728	5,458
売上総利益	1,328	1,266
販売費及び一般管理費	1,184	1,211
営業利益	143	55
営業外収益		
受取利息及び配当金	18	18
不動産賃貸料	13	14
その他	16	28
営業外収益合計	49	61
営業外費用		
支払利息	21	19
その他	1	0
営業外費用合計	22	19
経常利益	170	96
特別利益		
投資有価証券売却益	0	—
特別利益合計	0	—
特別損失		
有形固定資産除却損	0	0
投資有価証券評価損	—	23
特別損失合計	0	23
税金等調整前四半期純利益	170	73
法人税、住民税及び事業税	101	56
法人税等調整額	△41	△33
法人税等合計	59	22
四半期純利益	111	50
非支配株主に帰属する四半期純利益	0	0
親会社株主に帰属する四半期純利益	111	50

四半期連結包括利益計算書  
第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)
四半期純利益	111	50
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	245	△117
退職給付に係る調整額	5	6
その他の包括利益合計	250	△111
四半期包括利益	361	△60
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	361	△61
非支配株主に係る四半期包括利益	0	0

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自 平成27年4月1日 至 平成27年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント		合計
	加工食品事業	食肉事業	
売上高			
外部顧客への売上高	3,255	3,801	7,056
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—
計	3,255	3,801	7,056
セグメント利益	181	90	272

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容  
(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	272
全社費用(注)	△128
四半期連結損益計算書の営業利益	143

(注)全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であり、管理部門に係る費用であります。

II 当第1四半期連結累計期間(自 平成28年4月1日 至 平成28年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント		合計
	加工食品事業	食肉事業	
売上高			
外部顧客への売上高	2,983	3,741	6,725
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—
計	2,983	3,741	6,725
セグメント利益	145	42	188

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容  
(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	188
全社費用(注)	△133
四半期連結損益計算書の営業利益	55

(注)全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であり、管理部門に係る費用であります。